

NEWS!

Vol.45-4
No.222
令和8年秋号
編集・発行
松浦機械製作所

第33回日本国際工作機械見本市 JIMTOF2026出展



世界最大級の工作機械見本市「JIMTOF2026」が10月26日(月)より6日間、東京ビッグサイトにて開催されます。

33回目の開催となる本展示会では、「果てなき高度へ 羽ばたく技術」のキャッチコピーのもと、1,134社の企業が最先端の工作機械関連製品や技術を出展します。

会期中は、各企業や団体の最新技術の展示に加え、出展者によるワークショップや大学・研究機関による研究成果の発表、学生向けのものづくり体験など、多彩な企画が予定されています。ぜひ皆様のご来場をお待ちしております。

松浦機械製作所 出展概要

会 期 10月26日(月)~10月31日(土)

開催時間 10:00~17:00
(最終日は16:00終了)

ブ ー ス 東3ホール E3030

出展機種 **MX-850T PC4**
MX-520T PC7

世界初披露



MX-850T PC4

シン・5軸 5軸加工の、その先へ。

今回の出展テーマは「5軸加工の、その先へ。」

5軸加工を核とした「工程集約」と「自動化・無人運転」によって、製造現場の生産性向上を提案します。

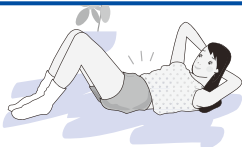
最大の注目は、世界初披露となる5軸複合マシニングセンタ「**MX-850T PC4**」です。大型ワークに対応し、5軸加工と旋削を1台に集約することで、工程数やリードタイムを大幅に削減し、長時間の無人運転を実現します。また、「**MX-520T PC7**」では、5軸加工と旋削による工程集約に加え、マルチパレットによる長時間無人運転を提案します。

さらに、複合加工も直観的で使い易い「**Mios 4**」をはじめ、GibbsCAM 2026の新機能、ハイブリッド金属3D プリンタ「**LUMEX Avance-25**」最新サンプルワーク 予防保全パッケージなど、工作機械単体にとどまらない生産現場の課題解決につながる技術を紹介します。

当ブースでは、実機による加工や自動化システムをご覧いただけます。

ぜひマツウラブースへお越しください。 **出展内容の詳細は4-5ページをご覧ください**

日本のヘソ 福井 No.218



福井は日本のど真ん中「日本のヘソ福井」第218回は、「かにファクトリー 甲羅組」の話です。

2026年7月16日、敦賀市に「かにファクトリー 甲羅組」がグランドオープンしました。敦賀市で海産物の販売や水産加工などを手掛ける企業が運営する、カニの加工工場を一般公開した体験型施設です。施設内には、カニの加工工程を見学できる工場のほか、カニ料理を楽しめる飲食店やフードコート、子ども向けのキッズランドなどが設けられています。

施設の大きな特徴は、普段は見ることのできないカニの加工工程を間近で見学できることです。製造現場を単に見てもらうだけでなく、「見て、遊んで、食べる」体験を通じて、カニや水産加工の魅力を知ってもらうことを目指しています。入場料は無料で、年間50万人の来場を目標としているとのこと。

近年、製造現場を観光資源として活用する「オープンファクトリー」が全国各地で注目されています。製品が生み出される過程を実際に見てもらうことは、企業のモノづくりへの理解を深めるだけでなく、地域の魅力を発信する機会にもなります。

「かにファクトリー 甲羅組」をきっかけに、敦賀の食とモノづくりの魅力がさらに多くの人に知られ、福井県を訪れる新たな人の流れが生まれることを期待しています。

ユーザーを訪ねて

No. 206

株式会社 中島ターレット 新たな設備や技術を柔軟に取り入れ、



▲ 会社外観

今回の「ユーザーを訪ねて」では、JR海老津駅から徒歩25分の場所にある株式会社中島ターレットを訪問しました。取材には、代表取締役 中嶋宏太郎様と取締役会長 中嶋英二郎様、第2製造課課長 豊田悟志様にご対応いただきました。

同社は1964年、北九州市八幡西区築地町で「中島ターレット工業所」として中嶋實氏が創業しました。創業当初は4名で事業を開始し、ターレット旋盤を導入して、「引き出し物加工」を中心に手掛けていました。

その後、時代の変化やお客様のニーズに合わせて設備を増強し、1991年にはそれまで複数の拠点に分散していた生産機能を現在の岡垣町に集約しました。生産拠点を一箇所にまとめることで、材料や製品、人員の移動を効率化し、現在の生産体制を築いています。

現在は、半導体製造装置部品をはじめ、産業機械部品、ロボット関連部品、モーター関連部品、航空機部品など、幅広い分野の部品加工を手掛けています。

事業内容と会社の強み

同社の特徴の一つは、充実した設備と、それらを最大限に活用する技術力です。

約130台の工作機械を保有し、NC旋盤やマシニングセンタ、横形マシニングセンタ、5軸加工機など、多種多様な設備を取りそろえています。これらの設備を活用し、多品種少量生産に対応できる体制を整えるとともに、難易度の高い加工にも積極的に取り組んでいます。

また、設備の充実に加え、長年の加工経験を通じて培われた技術やノウハウも同社の強みです。豊富な設備と確かな技術力を組み合わせることで、高品質な加工と短納期への対応を実現しています。

JIS Q 9100取得を契機に、航空機分野へ挑戦

同社の事業展開において、大きな転機となったのが航空機分野への参入です。

航空機部品の加工に取り組むにあたり、JIS Q 9100を取

得しました。取得に向けて、加工工程や品質管理に関するルールを明確化するとともに、作業内容を文書化し、チェックシートなどを活用した管理体制を整備しました。

こうした取り組みを通じて、これまで現場で培ってきた経験やノウハウを、誰もが理解できる形に整理。品質に対する意識にも変化が生まれたといいます。作業者自身が「なぜこの作業を行うのか」「どのような点に注意する必要があるのか」を考える機会が増え、品質管理への理解も深まりました。

航空機分野で求められる厳格な品質管理を通じて培われた考え方や仕組みは、航空機部品にとどまらず、他分野の部品加工にも生かされています。

マツウラとの出会い

マツウラとの出会いは、CAD/CAMの導入がきっかけでした。

同社が初めてCAD/CAMを導入する際、選定の決め手となったのは、近隣の取引先で実際にGIBBSCAMを使用している企業からの評価でした。

その後、航空機部品などの加工に取り組む中で、5軸加工に対応したCAD/CAMが必要となりました。こうした中、マツウラの担当者が加工やプログラムに関する相談に親身に対応したことが、同社との信頼関係を深めるきっかけとなりました。

実際に、プログラム上の問題を解決するため、マツウラの担当者が長期間にわたり同社の現場に入り、対応したこともあったといいます。こうした現場に寄り添ったサポートの積み重ねが、現在の取引関係につながっています。



豊田悟志課長 中嶋英二郎会長 中嶋宏太郎社長

5軸加工の可能性を広げたMXシリーズ

同社が初めて導入したマツウラの5軸マシニングセンタが、2010年に導入された**MX-520**です。機種選定の決め手となったのは、先行導入していたGIBBSCAMとの親和

モノづくりの可能性を広げる



▲ 同社の **MX-520** (2010 年・2016 年設備)

性の高さに加え、当時のマツウラ営業担当者に対する信頼でした。

MX-520 の導入により、従来は複数回の段取り替えが必要だった加工を、一度の段取りでまとめて行えるようになりました。工程の集約によって段取り時間が短縮されるとともに、加工精度の安定化にもつながっています。

また、5軸加工を活用することで、従来の3軸加工では難しかった形状にも対応できるようになりました。加工可能な製品の幅が広がったことも、**MX-520** 導入の大きなメリットです。

さらに、2016年には**MX-520**を増設。加工を特定の1台に集中させるのではなく、複数台で対応できる体制を整えることで、生産能力の向上に加え、設備停止時のリスク低減にもつながっています。

MX-520の使い勝手について

MX-520 について同社から評価いただいている点は、分かりやすい操作画面に加え、円形テーブルの採用により、主軸をワークや治具に接近させやすい構造を備えていることです。また、レーザー式工具長測定機能は、工具長を高精度に測定することで、安定した加工精度の実現を支えています。

さらに、同社の**MX-520**には、オプションのロータリーテーブルダイナミックフィクスチャオフセット機能が搭載されており、ワークの芯出し作業を容易にしています。60本のツールマガジンを備えているため、前工程で使用した工具を搭載したまま、別のワークの段取りを進めることができ、段取り時間の短縮にもつながっています。

株式会社 中島ターレット 概要

本社工場 〒811-4222
福岡県遠賀郡岡垣町戸切379番地の1
TEL: 093-283-3030
FAX: 093-283-3028

水巻工場 〒807-0056
福岡県遠賀郡水巻町伊左座5丁目19番地の17

代表者 代表取締役 中嶋 宏太郎
創業 1964年10月
従業員数 114名
事業内容 半導体製造部品加工、精密機械部品加工、航空機部品加工、品質管理

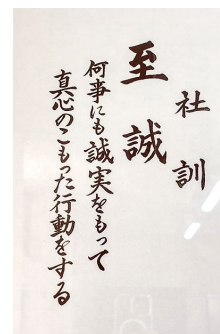
今後の展望について

同社の今後の展望について、中嶋社長は次のように語ります。

「今後は、既存のお客様により良い製品を提供できるよう努めるとともに、さまざまな分野のお客様との取引を拡大し、事業の柱を増やしていきたいと考えています。これまで培ってきた精密加工技術を生かしながら、新たな加工分野にも積極的に挑戦していく方針です。

特に航空機分野への取り組みについては、単に売上の柱とすることだけを目的としているわけではありません。同分野で求められる品質管理や管理能力を身に付け、それらを既存のお客様への対応にも生かしていくことを重視しています。

経営面では、部門ごとの部分最適にとどまらず、会社全体の視点で判断・行動できる組織づくりを進めています。プロジェクトチームのような組織運営の仕組みも検討しながら、社員一人ひとりが付加価値の向上を考え、お客様に喜ばれる仕事を生み出せる体制を目指しています。」



▲ 同社の社訓

航空機産業への参入には、中嶋会長の熱い想いも大きく影響していたようです。

幼少期、近所に航空機に詳しい方がいたことをきっかけに、航空機のプラモデルを作ようになったという中嶋会長。やがて製造業の道へ進み、「この道に進んだからには、せっかくなら航空機関連の仕事に携わりたい」という想いを抱くようになりました。

取材の中で、航空機に対する想いを尋ねると、中嶋会長は「航空機は機能美の極致。モノづくりの頂点だと思います」と語っていただきました。航空機への憧れとモノづくりに対する情熱が、同社の航空機産業への挑戦、そして日々のモノづくりを支える原動力の一つになっていると感じました。

今回のインタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取り、ご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧下さい。



JIMTOF2026出展特集



シン・5軸 5軸加工の、その先へ。

自動化・無人運転が、新たな生産性をつくる。

会 期 10月26日(月)～10月31日(土)

会 場 東京ビッグサイト (東京国際展示場)

ブース 東3ホール E3030

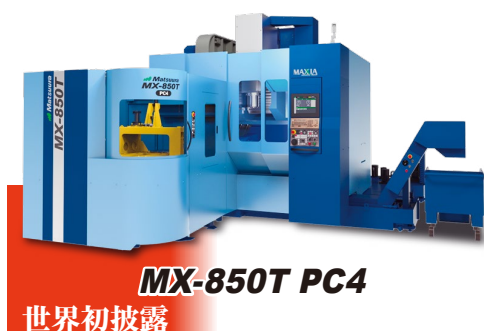
- 自社の加工に最適な5軸マシニングセンタを探している
- 5軸加工に加え、さらなる工程集約を実現したい
- 自動化・無人運転で生産性を向上させたい
- 新しい加工方法や加工技術を取り入れたい

このような課題をお持ちの方は
ぜひマツウラブースへ
お越しください!



5軸マシニング加工 + 旋削加工

出展機種



5軸複合加工機のエントリーモデル **MX-T Series**

MXシリーズの「はじめてでも安心・簡単な5軸機」のコンセプトを踏襲しつつ、旋削加工を付加した新たなシリーズとして、2024年に販売開始した**MX-520T**に続き、大型ワークにも対応した**MX-850T**を世界初披露!

ワンチャッキングで複合加工が可能なことを、同機種で様々な加工方法を実演します。マツウラならではの5軸加工による工程集約の提案にご期待ください。

MXシリーズマルチパレットシステム **PC4/PC7**

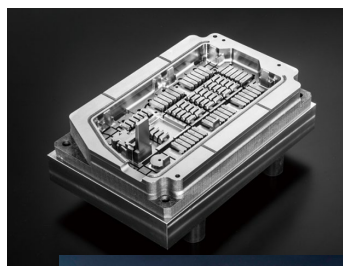
自動化システムとして、**MX**シリーズはフロアパレットシステム **PC4**とタワーパレットシステム **PC7**を準備しています。**PC7**は **PC4**と同等の設置スペースでパレット枚数を4枚から7枚へ拡張し、設置スペースを増やすことなく、さらなる長時間無人運転と生産性向上を実現します。

複雑高精度な5軸複合加工も 直観的かつ使いやすい操作で

マツウラ独自のOS「**MiOS 4**」なら複雑な5軸複合加工も直観的な操作で難なく扱うことができます。パレットチェンジャを用いた自動化・無人運転も確実にサポートします。

MiOS 4はブースにてシミュレータの操作体験を行うことができますので、ぜひ会場でその使い易さを体感ください。

LUMEX Avance-25 最新サンプルワーク展示



現場で使える、 金属3D プリントを提案

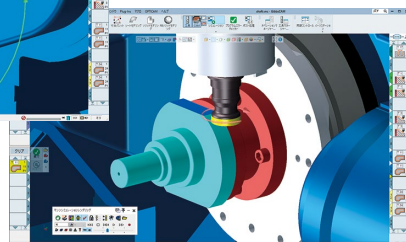
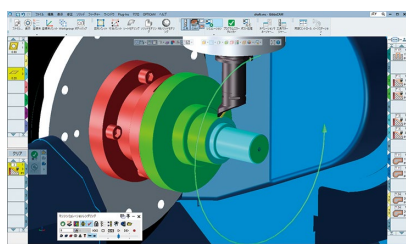
金属積層造形+高速切削が融合する **LUMEX** だからこそ提案できる新しいモノづくりを新たなサンプルワークとともに展示いたします。

ハイサイクルかつ高品質を両立させる高機能金型の製造や3次元中空構造などを組み込んだ部品の軽量化など **LUMEX** ならではのソリューションをご覧ください。

展示ワークをお手に取ってご覧いただき、ぜひ受託造形サービスをご検討ください。



GIBBSCAM 2026



さらに使いやすく、さらに便利に。

GIBBSCAMはマツウラ製すべての工作機械に対応しており、直観的で簡単な操作性は高く評価されています。

本展示会では、最新バージョンの GIBBSCAM 2026を新機能を中心にご紹介いたします。

もちろん5軸複合加工にも対応しており、**MX-T** シリーズにも対応。旋削とマシニングの NC プログラムのワンストップ作成を支援します。ぜひ会場で使い易さをご体感ください。



取締役 松浦 悠人



最近、北米へ出張で印象的だったのが、生成AIを使ってSaaS系のサービスを自作する人の多さです。それもIT企業ではなく、身近なグループ会社や町工場規模のユーザーまで、自分たちに必要なシステムを作っていました。

「生成AIがシステム系の仕事を奪う」という話は以前から聞いていましたが、実物を見ると、その意味がよく分かります。これまで専門家に依頼していたようなものを、素人でも数日で形にできる。これはかなり革命的で、弊社にも十分に使いこなせていないSaaSがあり、中には年間のランニングコストが1,000万円を超えるものもあります。必要な機能を独自システムで代替できるなら、経営者にとって非常に魅力的な選択肢です。

工作機械の世界でも、少し前までは「これからはハードではなくソフトが付加価値を決める」とよく言われていました。ところが生成AIによって、システムやインターフェースを作るハードルが一気に下がっています。制御機器メーカーもAI実装を進めており、近い将来、標準的な操作画面やインターフェースは、工作機械メーカーが一から作らなくてもよくなるかもしれません。

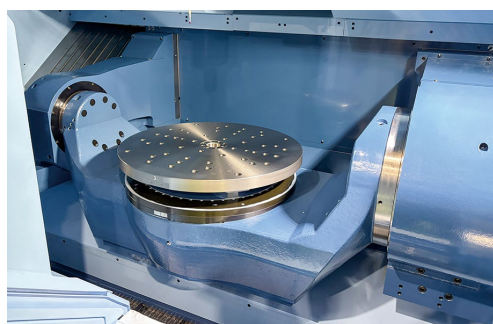
私は「工作機械の未来をどう予測しますか」と聞かれることがありますが、これまでは「正直、分かりません」と答えてきました。今なら一つだけ、「メーカーがフロント側のソフトウェア開発から解放される日が来るかもしれない」と付け加えます。そうなったとき、改めて問われるのはハードの価値です。長年使える信頼性なのか、短期間で更新できる安さなのか。それとも、まだ別の価値なのか。生成AIはソフトウェアの世界だけでなく、エンジニアリング企業が何を強みにすべきかまで変えようとしています。今まさに、大きなターニングポイントにいるのかもしれません。

新機種 **MX-850T** 特集



MX-T Series 第2弾 大型ワークに対応した 5軸複合マシニングセンタ

- 5軸加工と旋削加工を1台で実現
- 最大ワークサイズ $\phi 850 \times H385 / 400\text{kg}$ に対応(PC付)
- C軸に最高回転数 800min^{-1} 、最大トルク 600Nm のダイレクトドライブモータ採用



大型ワーク加工に対応した マツウラ独自設計の専用4/5軸テーブルを搭載

最大工作物寸法を $\phi 850 \times H450\text{mm}^*$ ($H385\text{mm}$)、工作物許容質量を 500kg^* (400kg) とし、**MX-520T**と比較して加工可能ワーク容量は約3.3倍^{*}(約3.0倍)、許容質量は2.5倍^{*}(約2.3倍)へ拡大。^{*}()内はパレット仕様。
4/5軸テーブルには、最高回転数 800min^{-1} 、最大トルク 600Nm のダイレクトドライブモータを採用し、旋削モードで 800min^{-1} 、マシニングモードで 100min^{-1} の高速回転を可能としています。

また、**MX**シリーズの特徴でもある主軸やワークへの接近性はそのまま踏襲しており、段取のし易さなど優れた作業性を持ち合わせています。

本格的な旋削性能



主軸端には複合加工機用 HSK-T63 を採用するとともに、高剛性ブレーキ機構を標準装備し、高精度な旋削加工に対応しています。
また、ブレーキ機構を搭載しながらも主軸ノーズ径をコンパクトに抑え、マシニング加工時の優れた接近性も確保しました。

優れた 切屑処理構造

MX-850 独自の構造を生かし、4/5軸テーブル直下にヒンジ式リフトアップコンベアを標準装備しました。さらに、クーラント吐出方法を最適化した切屑除去ノズルを採用し、長時間無人運転においても安定した切屑処理性能を発揮します。



項 目	単位	NEW MX-850T	参考 MX-850	参考 MX-520T
移動量 (X/Y/C軸)	mm	900/780/650	900/780/650	630/560/510
移動量 (A/C軸)	deg	-125 ~ +30/360	-125 ~ +30/360	-125 ~ +10/360
早送り速度 (X/Y/Z軸)	m/min	40/40/40	40/40/40	40/40/40
早送り速度 (A/C軸)	min ⁻¹	20/100 (旋削モード800)	20/40	33/100 (旋削モード800)
切削送り速度 (X/Y/Z軸)	m/min	40/40/40	40/40/40	40/40/40
主軸回転速度	min ⁻¹	12,000	12,000	12,000
主軸モータ出力・トルク	kW・Nm	18.5/22・191	18.5/22・191	11/11・159
旋削主軸(C軸)トルク	Nm	600	—	500
パレット仕様 (オプション)	枚	PC4/PC7	PC4/PC7	PC4/PC7
作業面の大きさ (PC4/PC7)	mm	D500 (D630)	D500 (標準) D700 (オプション) (D630)	D300 (D400)
最大工作物寸法 (PC4/PC7)	mm	D850 × H450 (D850 × H385)	D850 × H450 (D850 × H385)	D520 × H350 (D520 × H330)
工作物許容質量 (PC4/PC7)	kg	500(400)	500(400)	200(175)

MX-850T 開発者インタビュー

■ 開発コンセプト

2024年に**MX-T**シリーズの第1弾となる**MX-520T**を発表して以降、展示会などでお客様から、さらに一回り大きなサイズの機種を求める声が多く寄せられていました。こうしたご要望を受け、当社では、**MX-520T**より一回り大きな**MX-850**をベースに、ターニング機能を付加した複合加工機の開発に着手しました。

MX-850Tの基本コンセプトは、ベース機である**MX-850**の切削能力や使い勝手、外観、設置スペースを維持しながら、新たにターニング機能を搭載することです。

■ 4/5軸について

ターニング機能を付加するうえで、重要なポイントとなるのが4/5軸の剛性です。**MX-520T**の開発時とは異なり、加工対象となるワークも大幅に大型化するため、機械の大きさを変えることなく、マシニングセンタとしての精度を維持しながら、いかに4/5軸の剛性を高めるかが最大の課題となりました。

この課題を解決するため、解析と調整を繰り返しながら機械構造を最適化し、必要な割り出し精度を実現しました。その結果、**MX-850**本来の機械サイズや使用可能なツール、オプションなどに制約を設けることなく、ターニング機能を付加することができました。



デザインエンジニアリング本部
開発研究
シニアチーフ
為頭 孝諮

■ 切削処理について

4/5軸直下には切粉処理装置を配置し、マシニング加工、旋削加工のいずれで発生する切粉もスムーズに排出できる構造としています。また、**MX-520T**と機構や部品の一部を共通化することで、**MX-T**シリーズとしての設計の統一性を図っています。

■ 自動化機能

MX-850Tは、**MX-850**と同様にパレットチェンジャを搭載することができます。現在は4パレット仕様(**PC4**)のみのラインアップですが、設置スペースを変えることなく、さらに3パレットを追加した7パレット仕様(**PC7**)も選択いただけるよう、現在開発を進めています。**PC7**仕様では、パレット数の増加によって連続運転時間を拡大でき、さらなる生産効率の向上を実現できます。

シングルorダブル 展示会



社長 松浦 勝俊

この9月に米国シカゴで開催された展示会IMTS 2026に出席して参りました。米国市場は、防衛、航空宇宙、AIデータセンタ関連産業を中心に活況を呈しており、会期初日の月曜日は通常来場者の移動日となりスロースタートとなるところですが、今回は初日から多くの来場者でブースが賑わい、滞在した木曜日までもずっと忙しく来場者の対応をしておりました。ブースには、標準色に加えて乳がん支援をサポートするピンクとホワイトの2トーンや斬新なブラックに塗装された特別色の機械が展示され華やかでした。また、機械づくりの基礎となる摺り合わせ作業の実演やその作業を実際に来場者に体験してもらったり、25年が経った9.11を追悼する約142センチのOne World Trade Centerの精巧な削り出しモデル、米国子会社が今回パートナーシップを結んだフォードのNASCARエンジンサプライヤーであるRoush Yates EnginesのV8エンジンを飾ってあったり、その他にも目を引く展示が多くありました。

来られたどのお客様に聞いても「ここ暫くは多忙だ」と言われており、米国製造業の力強さを実感した次第です。会期中、実際の受注や多くの有望な引き合いをいただき、その後のフォローアップに尽力しております。

同じ週にドイツ、シュトゥットガルトで開催された展示会AMB 2026も来場者が多くあったとの報告を受けており、このところずっと厳しかったドイツ市場にも漸く明るい兆しが見えて来たようで少なからずほっとしました。

両展示会とも好評で良かったと言えますが、このところこのような展示会に出展する度に感じるのは、フルラインでボリュームを追い求めるビジネスモデルではなく、得意とするサイズに集中し付加価値を求める顧客層に届けるマツウラのモデルが十分なマッチング効果を上げているのかと感じる点です。伝統的な展示会出展によるプラス効果、より長期的視点で得られるものなのでしょうが、投資効果を明確に計るのは難しく、もっと有効的なリソースの使い方もあるのではないかと自問してしまいます。悩ましいですね。

さて、10月には東京ビッグサイトで開催されるJIMTOF 2026があります。勿論、全力投球で臨んで参ります。皆様のご来場お待ち申し上げております。

海外展示会出展レポート



SEPTEMBER 14 - 19, 2026
MCCORMICK PLACE, CHICAGO

9月14日から6日間、アメリカ イリノイ州で開催された展示会IMTS2026のマツウラブースの様子についてご紹介いたします。

IMTS 2026 / International Manufacturing Technology Show 2026

日 程：2026年9月14日(月)～19日(土)

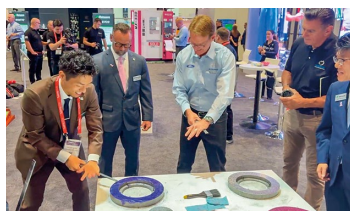
場 所：アメリカ・イリノイ州シカゴ McCormick Place
South Building 338630

出展機：MX-520T PC7, MX-330 PC10, MX-850 PC4
MAM72-42V PC32, LUMEX Avance-25



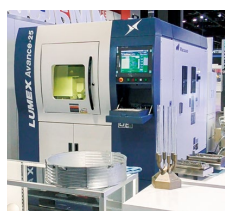
マシニングセンタでは、MX-Tシリーズ、MXシリーズ、MAM72シリーズを中心に、ほぼフルラインアップを展示しました。多彩なカラーリングも来場者の目を引き、ブラック/グレーを基調としたMX-520T PC7およびMAM72-42V PC32、ホワイト/ピンクのMX-330 PC10が、それぞれ個性的な存在感を放っていました。

また、サンプルワークとして、ニューヨークの「ワン・ワールド・トレード・センター」を精巧に削り出したレプリカを展示。その迫力ある造形と細部まで再現された加工精度に、来場者から驚きの声が上がっていました。



ブース内には、マツウラの高精度なものづくりを支える「きさげ」作業を体験できるコーナーも設置しました。松浦社長がきさげの技術や重要性について熱く語る一方、松浦取締役は来場者に作業を実演しながら、その方法を丁寧にレクチャー。来場者が実際にきさげ作業を体験するなど、ブース内は大いに盛り上がりました。

LUMEXブースでは、新たなサンプルワークを多数展示し、LUMEXの新たな活用方法を提案しました。また、LUMEXで製作したパターンヘッドを使用して試し打ちができる体験コーナーも設置。来場者の皆様には、楽しみながらLUMEXの技術や可能性を体感していただきました。



本号の書き終わり

* 8月度の工作機械受注額は1,979億円(前月比103%)と、前月比では2か月ぶり増加、前年同月比では14か月連続で増加しています。

内需は515億円(前月比97%)と、夏季休暇の影響もあり、前月比で2か月連続減少しました。外需は1,464億円(前月比105%)と前月比で2か月ぶりに増加、本年3月以降連続で1,300億円を超える受注額となっており、高い水準の受注額にて推移してきています。北米全体としても約500億円と、過去最高額であった

2026年3月実績(431億円)を大きく更新しています。

* 8月27日(木)、経済産業省 事務次官の藤木俊光様をはじめ、地元の産業界および行政関係の皆様が、弊社本社工場の視察のため来社されました。藤木事務次官は、前日26日に福井市内で開催された「県経済界サマースクール」に講師として招かれ、県内企業や団体のトップに向けて講演された後、翌27日には県内企業や研究機関を視察されました。弊社へのご来社も、その視察行程の一環として実現したものです。

当日は、松浦取締役による会社概要の説明に続き、LUMEX ショールームや加

工工場をご見学いただきました。限られた約1時間の行程ではありましたが、マツウラのものづくりを間近にご覧いただく貴重な機会となりました。特にLUMEXの見学には行程の約3分の1が充てられ、参加された皆様から次々と質問が寄せられるなど、その関心の高さがうかがえました。

今回の視察を通じて、マツウラの技術やものづくりへの取り組みが、日本の製造業の可能性を感じていただく一助となれば幸いです。今後も、世界に誇る日本のものづくりを支える一企業として、技術の研鑽と新たな価値の創造に努めてまいります。